

価格.com のデータを分析した最新トレンドをお届けする 「価格.com レポート」

消費増税後、製品の価格は上がった？ それとも下がった？

■ 増税前の駆け込み需要。大きく上がったのは「生活家電」と「パソコン関連」

2014年4月1日より消費税の税率が、従来までの5%から8%に引き上げられた。この増税を前にして、2月下旬から3月にかけて、価格.com 上でもいわゆる「駆け込み需要」が見られた。

図 1：生活家電主要 5 カテゴリー（冷蔵庫・冷凍庫、エアコン、掃除機、洗濯機、炊飯器）のアクセス推移（過去半年間）

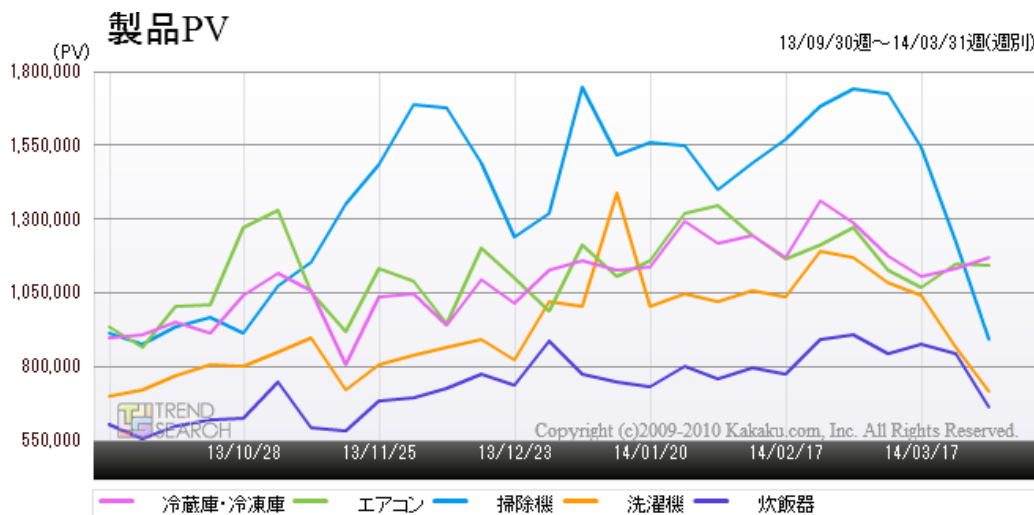


図 2：パソコン主要 3 カテゴリー

(ノートパソコン、タブレット PC(端末)・PDA、デスクトップパソコン) のアクセス推移（過去半年間）

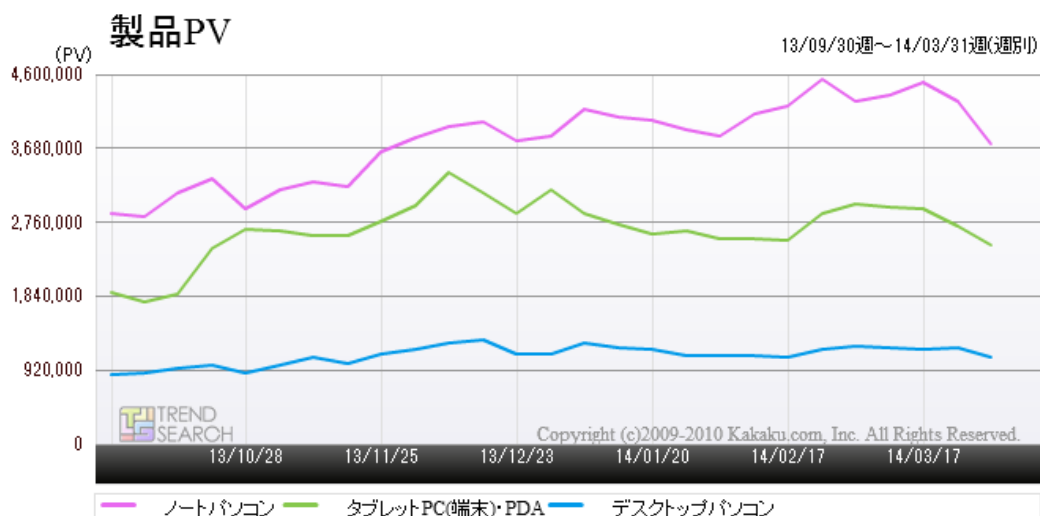


図 3 : カメラ主要 3 カテゴリー (デジタル一眼カメラ、デジタルカメラ、ビデオカメラ) のアクセス推移 (過去半年間)

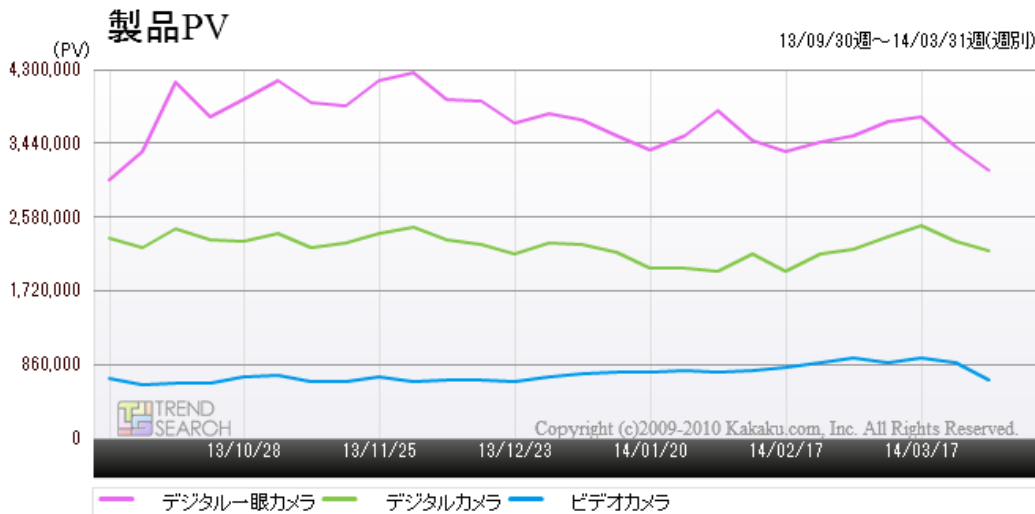


図 1、2、3 は、価格.com における、生活家電主要 5 カテゴリー (冷蔵庫・冷凍庫、エアコン、掃除機、洗濯機、炊飯器) と、パソコン主要 3 カテゴリー (ノートパソコン、タブレット PC(端末)・PDA、デスクトップパソコン)、カメラ主要 3 カテゴリー (デジタル一眼カメラ、デジタルカメラ、ビデオカメラ) の、ここ半年のアクセス推移を示したものだ。これを見ると、もっとも駆け込み需要が高まったのは「生活家電」、次いで「パソコン」ということがわかる。「カメラ」については、駆け込み需要は特に起こっておらず、2013 年の年末から比べると、「デジタル一眼カメラ」などではアクセスの低下も見られるほどだ。このように、今回の消費税増税前の駆け込み需要は、主に生活家電とパソコンの分野を中心に起こったことが見て取れる。

なお、生活家電系のカテゴリについては、増税実施後の 4 月 1 日以降、アクセスの落ち込みが激しく、反動がかなり出ていることがわかる。生活家電の場合、3 月は元来、新生活需要によってアクセスが高まる時期であり、4 月以降もさほどアクセスが落ちることはない。しかし、今年に関しては 3 月に例年以上の需要があった反動で、4 月に入った瞬間に急落している。これは完全な需要の先食いと言っていい。

いっぽうのパソコン系カテゴリについては、増税実施後の 4 月 1 日以降も、生活家電系カテゴリほどアクセスの落ち込みは見られない。これは、2014 年 4 月 9 日に正式サポートが終了した「Windows XP」からの乗り換え需要が強く働いていたためで、パソコンについては、消費税増税にプラスして、この Windows XP からの乗り換えニーズが大きかったことがわかる。

■ 今回の駆け込み需要でもっとも動いた商材は「大型冷蔵庫」「洗濯機」「炊飯器」

図 4 : 「冷蔵庫・冷凍庫」カテゴリのアクセス推移 (過去 2 年間)



図 5 : 「洗濯機」 カテゴリーのアクセス推移 (過去 2 年間)

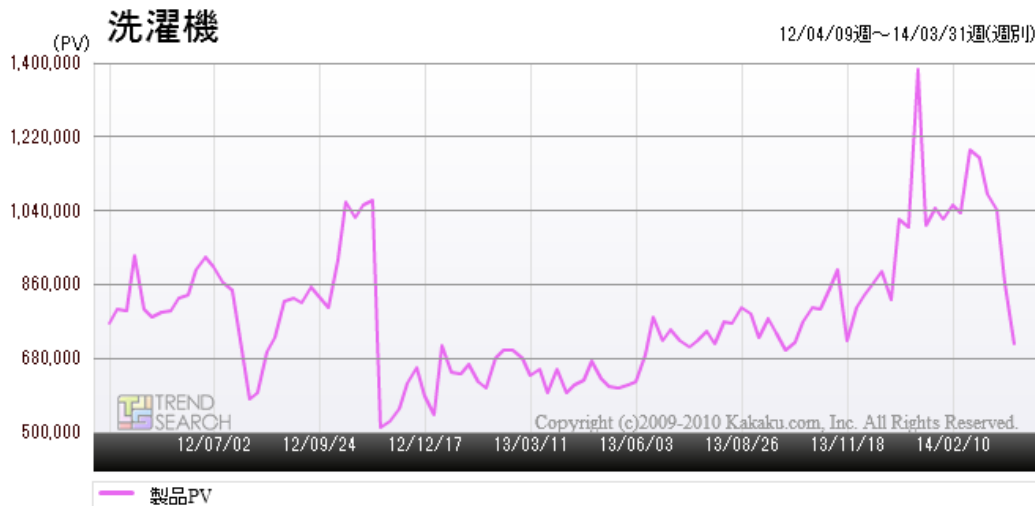
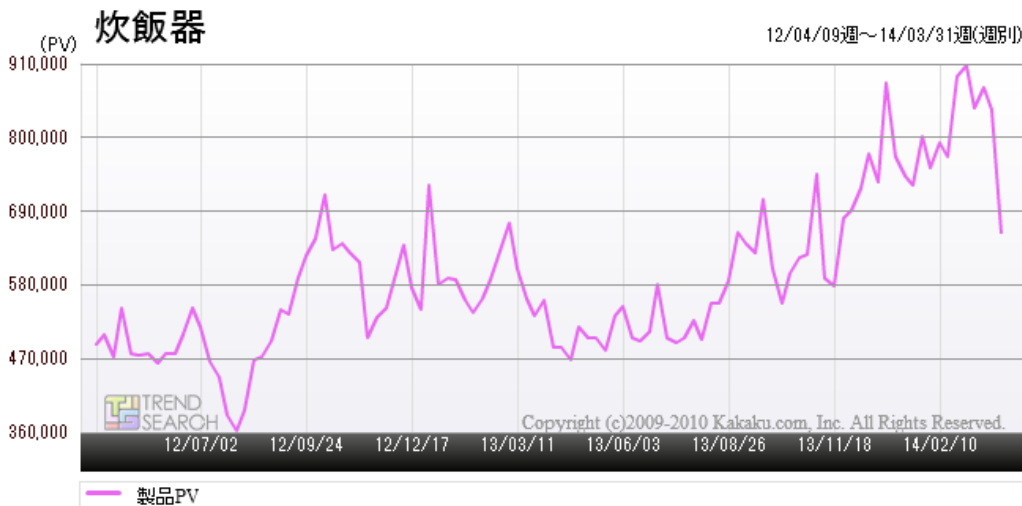


図 6 : 「炊飯器」 カテゴリーのアクセス推移 (過去 2 年間)



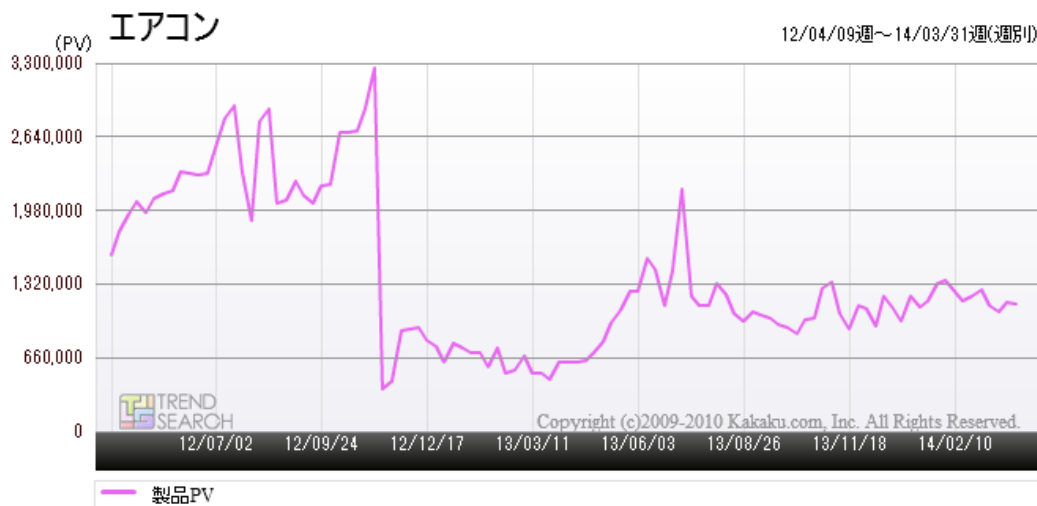
では、なかでも駆け込み需要の盛り上がりの大きかった「生活家電」について、もう少し詳しく見てみよう。図 4, 5, 6 は、生活家電の中でももっとも動きの大きかった 3 カテゴリーのアクセス推移 (過去 2 年) を示したものだ。

**※2012 年 11 月にアクセスが急落しているのは、価格.com の製品データベース改修にともなうもので、この時点のアクセスが急落したものではありません。**

まず、「冷蔵庫・冷凍庫」 カテゴリー (図 4) だが、例年暑くなってくる夏の時期にかけてアクセスが盛り上がる傾向にある。2013 年も夏にかけていったん盛り上がった後、秋には少し落ち着き、また年末以降に盛り上がりを見せたのだが、今シーズンに関して言えば、2013 年の年末以降もアクセスが落ちることなく上昇しており、3 月まできれいな右肩上がりのグラフを描いた。1 年前の 2013 年 2 月のアクセスと比べると、2014 年 2 月のアクセスは約 3 倍にも達しており、この 1 年で大きく伸びたことがわかる。特にこの 2~3 月にかけては、500L を超えるような大型冷蔵庫が人気となり、高額製品を中心に人気ランキングを騒がせた。価格帯でいえば、15~20 万円クラスの製品が大きく動いており、例年には見られない動きとなった。ちなみに、この「冷蔵庫」 カテゴリーは 4 月以降も、ほかのカテゴリーに比べてアクセスが大きく落ち込んでいないが、これは、後述する流通在庫の問題で、いまだ買い換え需要が衰えていないためと思われる。

また、図5の「洗濯機」カテゴリでも、2013年末以降、かなり急激にアクセスを上げているのが見て取れるが、これも例年には見られないような動きである。こちらは特に高価格帯の製品が中心というわけではなかったが、全体的にアクセスが伸び、1年前の2013年2月と比べると、2014年2月のアクセスは約2倍にも達した。このほか、図6の「炊飯器」カテゴリも同様の動きをしており、2013年の秋以降、右肩上がりのアクセスを記録している。こちらも1年前に比べると、2倍近い伸びとなっている。

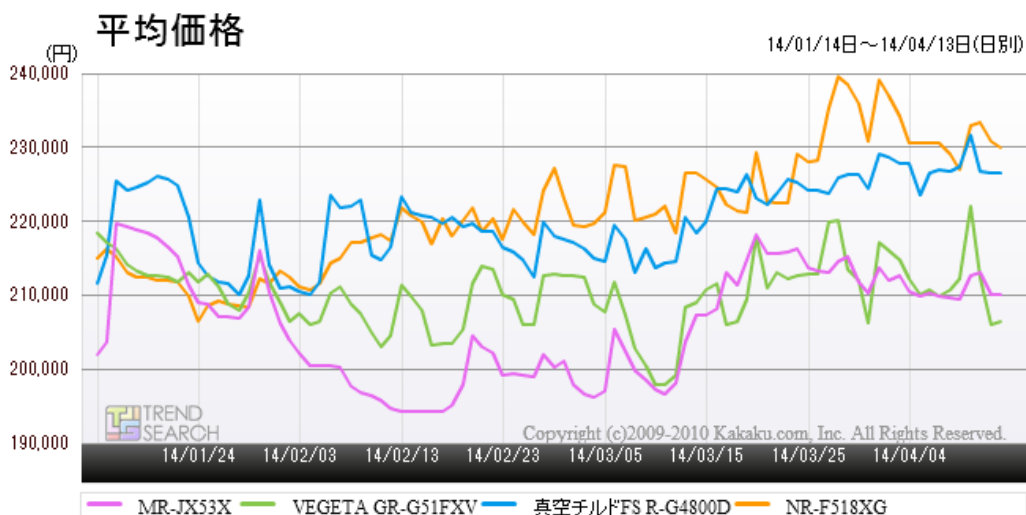
図7:「エアコン」カテゴリのアクセス推移(過去2年間)



上記の3カテゴリに比べるとやや対照的な動きとなったのが「エアコン」だ。図7を見るとわかるように、このカテゴリについては、2~3月にかけて大きな動きがほとんど見られない。大型冷蔵庫や洗濯機と並んで高額商品の代表各であるエアコンだが、例年暑くなってくる時期にならないとなかなか大きく動かないカテゴリであり、今年についても、その動き自体はさほどの変化はなかったようだ。もちろん、エアコンという商材は設置工事が必要なため、上記の一般的な生活家電と比べるとインターネット通販との相性は良くないため、駆け込み需要という意味では、対応の早い大手量販店などにユーザーが流れた可能性も大きい。そのため、一概に駆け込み需要が無かったとは言いがたいが、少なくともインターネット通販に関しては、そのような動きはほぼなかったと言ってよさそうだ。

■ 消費税増税実施後、モノの販売価格は上がった?それとも下がった?

図8:大型冷蔵庫(500L前後)の人気製品の平均価格推移(過去3か月)



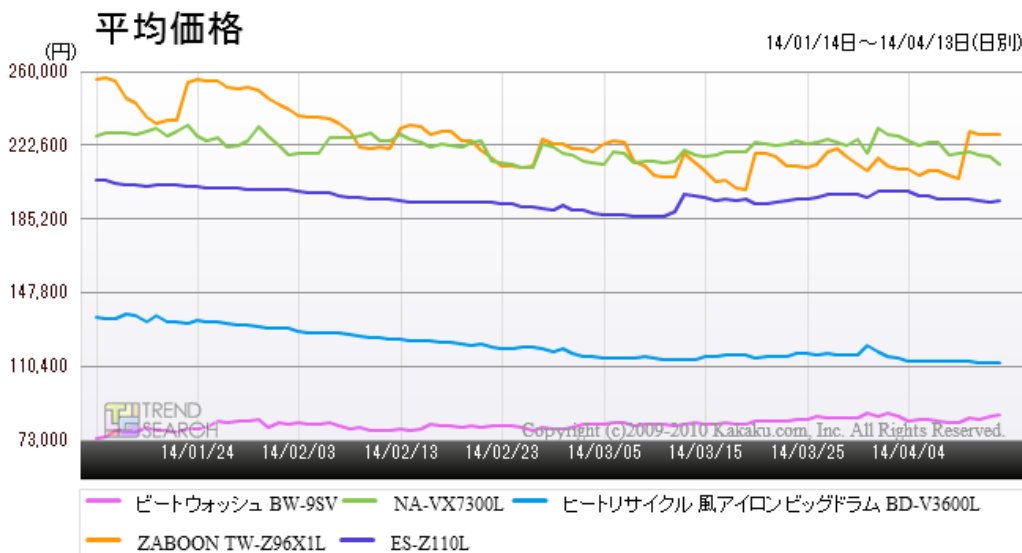
では、増税前と増税後で、モノの販売価格は上がったのだろうか、それとも下がったのだろうか。上記、駆け込み需要が大きかった生活家電の3カテゴリーを例に、その主要モデルの価格.com上の平均価格を見ながら、分析してみよう。

まずは、もっとも駆け込み需要が大きかった「大型冷蔵庫」であるが、図8を見ればわかるように、増税直前の3月末にかけてどの製品も大きく価格を上げていることがわかる。製品によって異なるが、直前の1~2月と比べて価格の開きが大きいものでは3万円ほど高騰しており、駆け込み需要に合わせて製品の販売価格自体がじりじりと上がっていった様子が見えてくる。

なお、この価格上昇のメカニズムであるが、これは店頭での流通在庫状況と密接に関係している。一般的に市場での流通在庫量が少なくなると、平均価格は上昇する傾向にあるが、この大型冷蔵庫に関してはこれが顕著に表れており、3月中盤くらいから流通在庫が少なくなったのにあわせて、平均価格が大きく上昇していった。

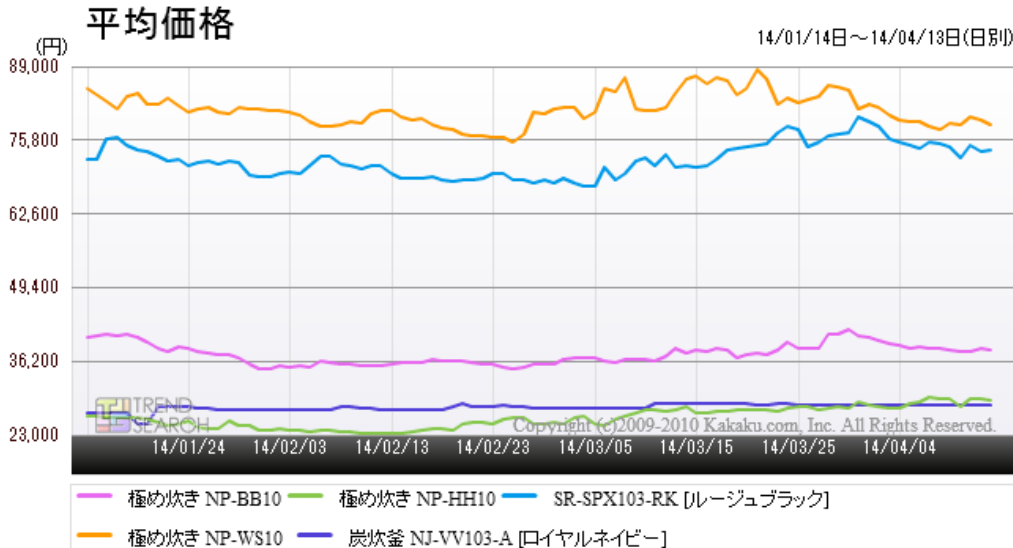
ただし、4月に入って駆け込み需要が終息すると、このグラフに示している4製品のうち、3製品のピーク時の価格よりもむしろ価格を下げてきている。3月の駆け込み需要で上がりきった価格分を埋めるほどではないが、ゆるやかに価格は下がって慰留。4月1日以降の価格下落のペースがゆるやかなのは、3月の駆け込み需要がかなり大きかった反動によるもの。消費税増税から2週間経った4月14日現在でも、店頭在庫がかなり少ない状況はまだ続いているため、価格が下がりづらいのだ。

図9：洗濯機人気製品の平均価格推移（過去3か月）



「洗濯機」の平均価格推移は、よりわかりやすい形を示している。図9は、価格.comの「洗濯機」カテゴリーの中の人気製品5モデルの価格推移を示したもののだが、ここ3か月で全般的にそれほど大きな価格上昇は見られず、消費税が8%にアップした4月1日以降も価格が上昇している製品はほとんどない。洗濯機については、3月に駆け込み需要はあったものの、大型冷蔵庫ほど在庫が逼迫するケースは少なかったため、その影響が販売価格までほとんど及んでいない。消費税増税後も、増税分の3%を販売価格に上乗せした店舗があるいっぽうで、それを超える値下げをした店舗もあり、平均価格はほぼ横ばいという状況だ。

図 10 : 炊飯器人気製品の平均価格推移 (過去 3 か月)



「炊飯器」についても、それほど大きな価格変動は見られない。図 10 は、価格.com の「炊飯器」カテゴリの中の人気製品 5 モデルの価格推移を示したもののだが、3 月の駆け込み需要期に若干価格が上昇してはいるものの、その上げ幅は大型冷蔵庫ほどではなく、ほぼ 10%以内に収まっている。消費税増税が始まった 4 月 1 日以降は、駆け込み需要で上がった価格が徐々に戻ってきている。

このように、駆け込み需要が大きかった生活家電の 3 カテゴリを見てみると、4 月 14 日現在では、駆け込み需要で上がりきった製品の販売価格が、それ以前の水準まで戻りきってはいないものの、徐々に下がってきていることが見て取れる。なお、新生活需要が一段落し、現在品薄状態にある流通在庫が回復してくる 4 月下旬から 5 月にかけて需要と供給のバランスが逆転してくれば、おそらく以前の水準くらいまでは販売価格が下がることが予想される。

図 11 : 日立「スリープ保存 真空チルド SL R-C5700」の平均価格推移



ちなみに、例年であれば、これらの生活家電は新生活需要などで盛り上がる 3 月に比べて、4 月のほうが販売価格が安くなる傾向にある。図 11 は、1 年前の大型冷蔵庫の人気モデルである日立「スリープ保存 真空チルド SL R-C5700」の平均価格推移を示したもののだが、3 月中のピークとなった 3 月の第 2 週の平均価格が 216,686 円だったのに対し、4 月の第 4 週には 179,288 円にまで下がっている。17%ほど価格

が下がっていることになるわけだ。今年の場合、前述のように流通在庫の量がまだ完全に戻ってきていないので、ここまでの価格下落とはなっていないが、流通在庫が増えるに従って、10%程度の価格下落は十分にあり得る。そうなれば、消費税の増税分 3%を十分に吸収できるほどの安値で製品を購入することも可能になるはずだ。

## ■まとめ：ズバリ今後の買いはいつ？

以上、見てきたように、消費税増税を前にした駆け込み需要は、主に大型家電を中心に起こったが、その反動は4月14日現在では、まだそれほど大きなものにはなっていない。というのも、駆け込み需要によって大型冷蔵庫などを中心に流通在庫の不足が起こったのが原因で、その状況は増税施行後、2週間経った今でも、まだ完全には解消されていないからだ。ただし、現在の販売価格が高止まりしているのも、流通在庫が増えてくると思われる4月下旬までで、それ以降は例年のような価格下落が起こるものと思われる。買い時は難しいが、5月の連休明けから5月末くらいには、いつその価格下落が起こることも考えられ、その頃には現在の販売価格より10%ほどの下げも期待できるだけに、消費税増税分はしっかり吸収できると思われる。なお、パソコンやテレビ関連などの製品については、これとはまた異なる価格変動をしているので、こちらについてはまた別途詳しくレポートしたい。

### ●価格.com 各カテゴリ URL

冷蔵庫・冷凍庫：<http://kakaku.com/kaden/freezer/>

洗濯機：<http://kakaku.com/kaden/washing-machine/>

掃除機：<http://kakaku.com/kaden/washing-machine/>

炊飯器：<http://kakaku.com/kaden/rice-cooker/>

エアコン：<http://kakaku.com/kaden/aircon/>

【価格.com サイトデータ】（2013年12月末現在）

月間利用者数 4,568 万人、月間ページビュー 10 億 3,292 万 PV、累計クチコミ件数 約 1,600 万件。

<利用者内訳> PC：2,990 万人 スマートフォン：1,510 万人 フィーチャーフォン：68 万人

【株式会社カカコム 会社概要】

所在地： 東京都渋谷区恵比寿南3丁目5番地7 恵比寿アイマークゲート

代表取締役： 田中 実

企業情報：<http://corporate.kakaku.com/>

事業内容： サイトの企画・運営

当社運営サイト一覧：<http://corporate.kakaku.com/company/service.html>

### データを引用・転載いただく際のクレジット表記について

本レポートの引用・転載の際は、必ずクレジットを明示くださいますようお願いいたします。

例)「価格.com レポート」より、「価格.com」のデータ分析によると…など